

Y22a Twitter を用いたすばる望遠鏡観測「実況」の試み

藤原英明, 小山佑世, 田中壺, 寺居剛, 仲田史明 (国立天文台)

すばる望遠鏡は口径8.2メートルの光学赤外線望遠鏡であり、米国ハワイ島のマウナケア山頂エリアに設置されている。国立天文台ハワイ観測所が運用する世界最大級の天体望遠鏡として日本国内外からの認知度は高く、観測で得られた科学成果に基づく広報活動(プレスリリースや講演など)への反響も大きい。一方で、従来の広報活動では、研究現場における「時間」や「興奮」を多くの方と共有するのが困難である、という課題があった。研究や装置開発など観測所における活動の多くは、(例えばロケット打ち上げや天文現象などのイベントに比べて)進行のタイムスケールが比較的長く、その様子を時々刻々と臨場感を持って伝えるにいたためである。

このたび、すばる望遠鏡に搭載された主焦点カメラ Suprime-Cam が、ハワイ時間2017年5月29日(日本時間2017年5月30日)に最後の観測夜を迎えた。Suprime-Cam は広い視野を一度に撮影できるユニークなカメラとして、すばる望遠鏡による観測天文学の「牽引役」として活躍した装置である。我々はこの Suprime-Cam 最終観測を、一晩というほどよいタイムスケールで進行する天文学の研究現場において「時間」や「興奮」を多くの方と共有するチャンスと捉え、マウナケアにあるすばる望遠鏡観測室から Twitter を通じて最終観測の様子を「実況」するキャンペーンを行った。マウナケア山頂エリアの特殊な環境、すばる望遠鏡や Suprime-Cam の特長、実際の観測体制や観測の進行状況などを伝える30ほどのツイートに対して、一晩のみのキャンペーンのにもかかわらず様々な反応があった。本発表では、実際に行ったすばる望遠鏡観測「実況」キャンペーンの内容や実施体制、反応等について報告する。